

静岡文化芸術大 船戸ゼミ生



住民への聞き取り調査を行う学生ら＝浜松市天竜区佐久間町浦川

集落存続策 佐久間で探る

中山間地域の集落維持を研究する静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生らが8月30日から、同市天竜区佐久間町浦川の集落の実情を探る実地調査を行っている。7日まで同町に滞在し、住民への聞き取り調査を通じて人口減少や少子高齢化が進む集落が存続するための町づくりを考える。

住民から実態聞き取り

文化政策学科の船戸修一准教授とゼミ生ら計7人が、浦川地区の中心部と早瀬集落を調査する。重点的に調べるのは「他出子」と呼んでいる町を出た子どもや孫世代の現状。他出子が故郷の地域づくりに参加できるかが存続性を考える上で重要なことから、自治会役員らにおおよその人数や年齢、現在の居住地、帰省頻度などについて話を聞いている。

今後、子や孫たちにもアンケートを実施し、将来の帰郷の意志

などを確認する。結果を住民に報告し、地域づくりに生かしてもらおう。

ゼミは2013年から天竜区内の集落で調査を行っているが、本年度は初めて地元出身者がメンバー入り。同町城西地区出身の金田鈴音さん(18)は「将来

は佐久間で暮らしたい。地域貢献するため、外から故郷を見て課題を学びたい」と意気込む。地元同級生も多くがすでに町外に出たが、帰郷の意志を持つ友達も少なくないといい、「若者が佐久間との関わりを切らずにいられる環境をつくるため自分にできることを考えたい」と話す。(水窪支局・塩谷将広)